

3. ドイツ語の魅力：豊かな表現力と自由度の高い文構造

(1) 豊かな表現力：ニュアンスが伝わる

「英語では日本語の細かいニュアンスが伝えられない！」と言われることがありますが、概して、それは、①英語には、私、僕、俺といった話し手の性別・個性を表す単語が無かったり、②「~だろう」「~だわ」「~ね」といった表現が難しいこと等を理由にしているようです。

それでは、ドイツ語はどうでしょうか。確かに、私、僕、俺といったニュアンスの異なる語句はありません。また、いわゆる「男性言葉」や「女性言葉」も存在しません。しかし、話し手の感情は英語よりも明確に表現することができます。

例えば、「後で電話をかけてください」はドイツ語では次のように言います。

Rufen Sie mich später an!

同じ内容の文でも、友達同士なら次のようになります（波線が付いた箇所が変わっています）。

Ruf mich später an!

親しい間柄で、「電話をかけてくれよ!」「電話してね!」という気持ちを伝えるのであれば、次のように表現することもできます。

Ruf mich **doch mal** später an!

このように、ドイツ語では、ニュアンスの違いを表現することができます。逆に、„Ab in den Süden“ や „Ab in den Urlaub“ など、日本語ではドイツ語のニュアンスをうまく伝えきれない例もあります。

(2) 自由度の高い構造：流れるような表現

また、ドイツ語では、語句を「主語＋動詞＋目的語」の順に並べる必要はないため、流れるような表現が可能です。いわば、ドイツ語は自由自在に操れる言語です。そのため、上達すればするほど、自分の個性・性格をより強く、また、詩的に表現することができるようになります。

ところで、「ドイツ語は固い」といったイメージを持っている人もいることでしょう。確かに、そのような点もありますが、ドイツ語の「固さ」には文の意味を理解しやすくするというメリットがあります。なお、実際のドイツ語は決して堅苦しい言語ではなく、話し手・書き手の個性や気持ち、また、ニュアンスを巧みに伝えることができる言語です。